

患者さまと井上眼科病院をつなぐ「眼」の情報ペーパー

INOUYE EYE

Note

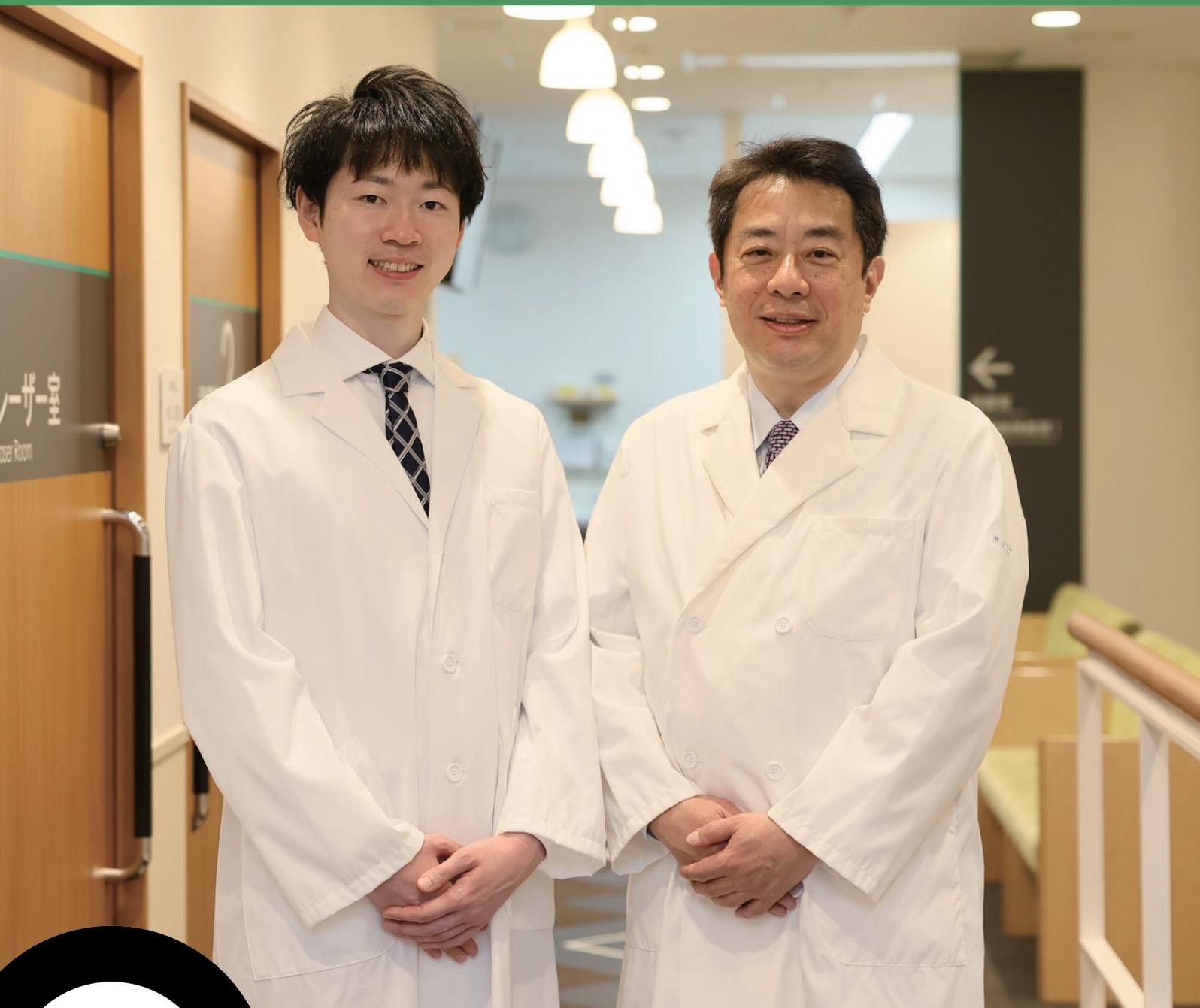
井上式！よくわかる目の病気事典

本当は怖い！？「飛蚊症」-正しい診断できちんと治療を

先生の、見つめてきたもの〈vol.13〉 酒井院長
同門会だより〈大野眼科クリニック〉

2024
SPRING
vol. 128

ご自由にお持ちください。



井上眼科だより



医療法人社団 済安堂

井上眼科病院グループ

INOUYE EYE HOSPITAL GROUP

ホームページからもご覧いただけます。

井上式！よくわかる目の病気事典

本当は怖い！？「飛蚊症」－正しい診断できちんと治療を

飛蚊症とは視界の中に浮遊物や糸くずのようなものが見える病気です。浮遊物の大きさや形状などは様々で、目の動きに合わせてついてきます。最初はうっとうしさを感じて気になりますが、徐々にその見え方に慣れてくる場合も多いようです。ただ、飛蚊症と似た症状には注意しないといけない病気が潜んでいることも。今回は札幌・井上眼科クリニックの院長に就任した酒井先生にお話を聞きました。

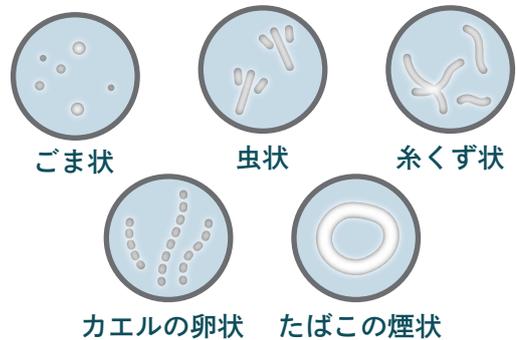
飛蚊症とは

飛蚊症の原因のひとつは「硝子体の濁り」です。硝子体は、その大半が水分やコラーゲンなどを成分とする無色透明なゼリー状の物質です。眼に入った光は角膜を通り、次に水晶体を通過し、最後に硝子体を通過して網膜上に像を結びます。光が視覚情報に変換され、脳に伝達されることで、私たちはモノを見ています。硝子体は眼球の形を保つ役目と共に、光を屈折させる役目を担っています。

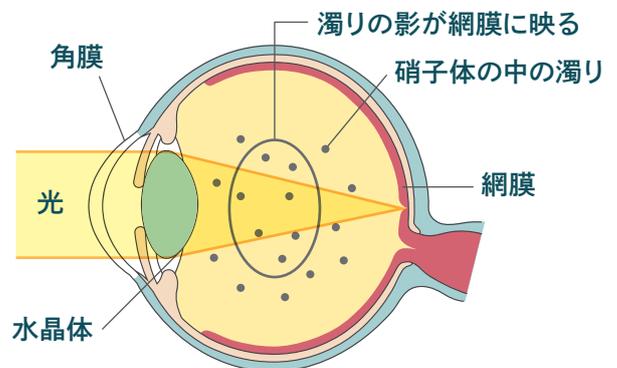
この硝子体が加齢により濁りだし、眼に光が入った際に、濁りの影が網膜に映し出されるようになります。これが飛蚊症の起こる仕組みです。視線を動かすと一緒に動いてくるように感じますが、暗い所だとあまり気にならなくなることが一般的です。近視の人は眼球がラグビーボール状に長くなり、硝子体内部にできた空洞に線維などが集まるため、飛蚊症を引き起こしやすいと言われています。

もうひとつの原因は、硝子体が萎縮することです。こちらも加齢を原因とするものです。硝子体中の水分量が変化し、萎んでいくことで、網膜から硝子体が剥がれて隙間ができます。この現象を「後部硝子体剥離」と呼びます。剥がれた硝子体の影が網膜に映って黒い点に見え、飛蚊症として現れます。一般的に60歳前後から良く見られると言われています。時間が経つと、硝子体後方の膜が移動し、網膜から離れていくので、影が薄くなり気にならなくなってきます。硝子体混濁、後部硝子体剥離、どちらも加齢によって生じ、誰にでも起こる症状であることから「生理的飛蚊症」と呼ばれています。

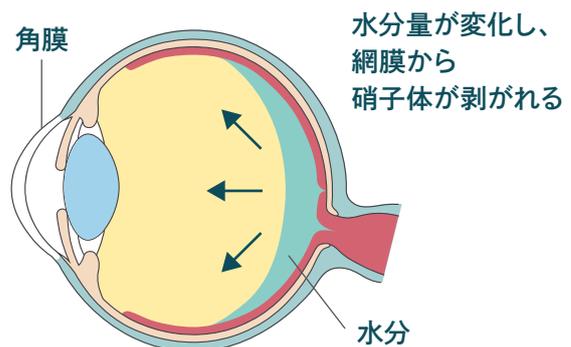
飛蚊症の見え方の例



原因①：硝子体の濁り



原因②：後部硝子体剥離

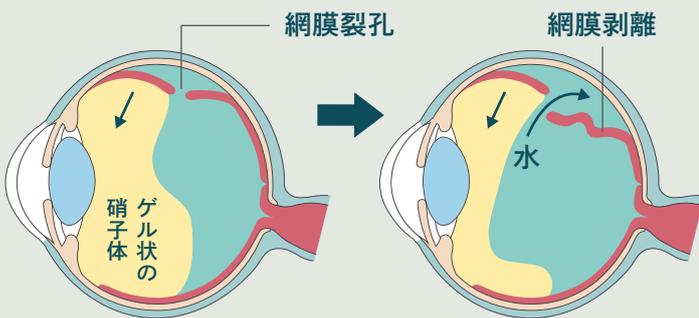


飛蚊症を初期症状とする病気

飛蚊症の多くは生理的な原因によるもので、心配はいりません。ただし、他の病気によって飛蚊症が現れている場合、早期に治療しなければ視力低下や視野欠損につながる可能性もあります。特に、急に症状が現れた、変化したといった場合は要注意。症状に気づいたら自己判断せずに、眼科で検査を行うようにしましょう。今回は代表的な3つの病気について説明します。

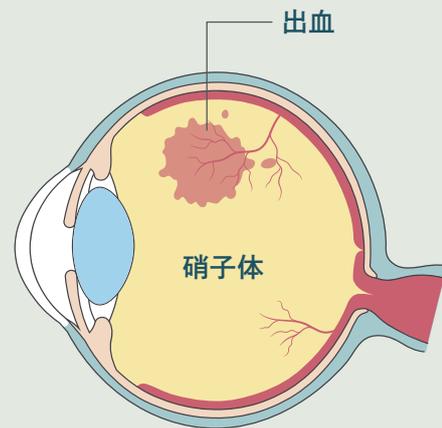
網膜裂孔・網膜剥離

網膜裂孔とは、後部硝子体剥離などをきっかけに、網膜に孔（あな）が開いたり、裂けたりする病気。初期の症状として、飛蚊症や光視症（視野の端に稲妻のような光が走る）が現れることがあります。網膜裂孔が生じた場合は、レーザー光線で孔の部分を焼き固め、剥離を防止します。進行して網膜剥離が生じると手術が必要です。網膜の中心部にある黄斑部分まで剥がれた場合、急激な視力低下が起こり、失明に至ることもあります。



硝子体出血

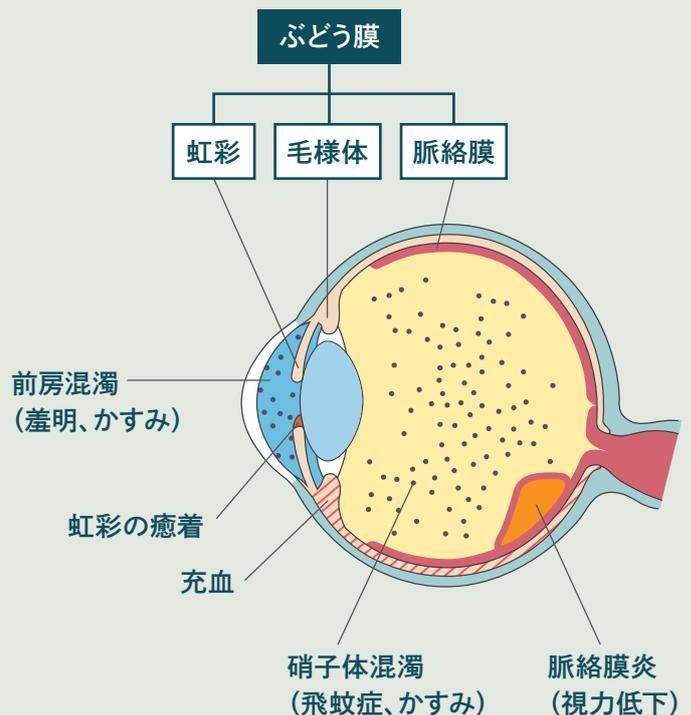
硝子体出血とは硝子体に出血がたまることで、光が網膜に届かなくなり見えなくなる病気です。糖尿病性網膜症、眼外傷、網膜上の新生血管の破裂などで出血が生じ、硝子体に留まると、「ケムリ状のものが見える」、「視界が真っ赤に見える」、「霧視（かすんで見える）」などの症状が現れます。硝子体出血は視野障害を引き起こすだけでなく、合併症や網膜損傷の危険性も伴います。



ぶどう膜炎

「ぶどう膜」とは、茶目の部分から奥に広がる、虹彩・毛様体・脈絡膜の3つの組織をまとめた総称です。黒褐色のメラニン色素を多く含み、眼球を外側から包んでいます。その名の通り、果物のぶどうに似ていることに由来します。

ぶどう膜炎とは感染症や免疫異常など何らかの原因で眼の中に炎症を起こす病気。主な症状としては、飛蚊症の他に、霧視、羞明感（まぶしく感じる）、視力低下、眼痛、充血などが見られます。片眼だけのことも両眼のこともあり、両眼交互に症状が現れることもあります。発症の頻度は高くありませんが、小児から高齢者まで幅広く見られます。全身疾患の症状のひとつとして現れた場合は、他の診療科と連携して、診断や治療を行うこともあります。

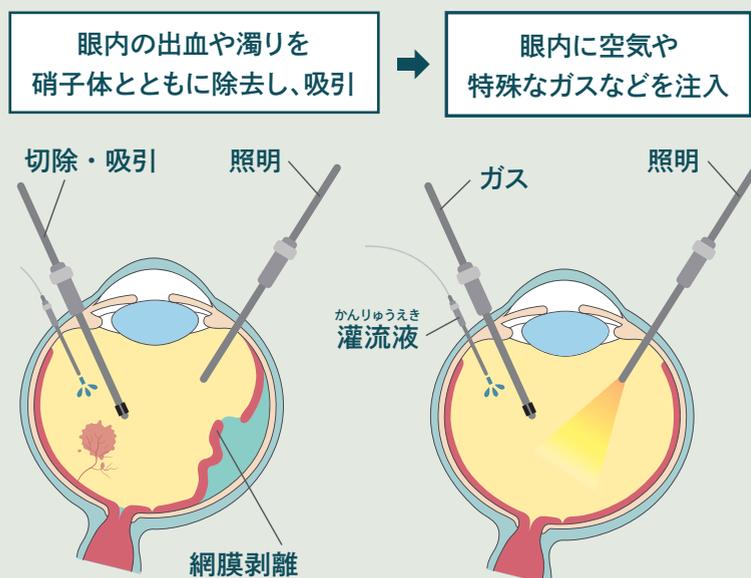


飛蚊症の治療法

飛蚊症を初期症状とする目の病気に関しては、いずれも早期の治療が大切です。今回は網膜剥離や硝子体出血の際に行う網膜硝子体の手術について簡単に解説します。近年では手術法や機器の発達により、症状によってはクリニックでも安全に手術ができるようになりました。

網膜硝子体手術とは

手術では局所麻酔をした上で、白目の部分に約0.5mmの小さな穴を3~4カ所開けていきます。硝子体出血の場合、硝子体カッターを使って血液が混ざった硝子体を切除していきます。続いて必要であれば原因疾患を治療して、再出血を予防します。原因疾患の治療には、光凝固、増殖膜除去などを行います。網膜剥離の場合も上記と同じ手術方法です。剥がれた網膜を押さえるために、眼の中に空気や特殊なガスあるいはシリコンオイルを入れます。



白内障と硝子体手術を同時にする場合も

硝子体切除術の後には白内障が進行しやすくなります。また治療効果を上げるために白内障手術を同時に行う場合があります。近年では白内障・硝子体手術を同時に行う事のできる手術装置「コンステレーション® ビジョンシステム」も登場。札幌クリニックをはじめ、西葛西・大宮の施設にも導入されています。最新の極小切開手術に対応可能で、あらゆる白内障・硝子体疾患に対し幅広い術式、きめ細かい手技で対応できるようになりました。安全で体に負担の少ない手術ができるため、手術時間も短く、患者さまの回復も格段に早くなるというメリットがあります。



▲コンステレーション®
ビジョンシステム

西葛西・井上眼科病院

網膜硝子体の治療を強化！



網膜硝子体手術を年間1000件以上実施し、日本トップクラスの実績をもつ西葛西・井上眼科病院。戸塚副院長に加えて4月より網膜硝子体を専門とする以下3名の医師が入職いたしました。お茶の水とも連携を強化し、網膜硝子体の手術・治療のレベルアップに努めてまいります。お気軽にご相談ください。

- 渡邊 恵美子 医師 (わたなべ えみこ)
〈元・帝京大学医学部眼科講座 病院准教授〉
- 東 邦洋 医師 (あずまくにひろ)
- 御任 真言 医師 (みとう しんげん)



患者さまの声をよく聞き、
一緒に治療に向き合っていきたい



今年 4 月より

札幌・井上眼科クリニックの院長に
就任した酒井先生。

これまでのキャリアや、
院長としてどのような病院づくりを
目指すのかを聞きました。

酒井 正人

Masato Sakai

札幌・井上眼科クリニック院長

2013年札幌医科大学医学部卒。北海道大学病院、KKR札幌医療センター眼科部長、手稲溪仁会病院、時計台記念病院などを経て、2024年4月より札幌・井上眼科クリニック院長に就任。専門は網膜硝子体。

人の役に立てるやりがいのある仕事を

子どもの頃から運動が好きで、休み時間や放課後に、友人とサッカーをするのが楽しみな小学生でした。中学校ではバスケットボール部に所属し、練習漬けの日々。さらに部活の後に、近くのスキー場ヘナイターを滑りに行ったりもしていましたね。その頃、疲労骨折で病院を受診したことがあり、それが医師という職業を意識した最初のきっかけだったように思います。

具体的に将来の職業として意識したのは、大学受験が近づいてきた高校生の頃でした。医師を目指すようになった理由は、人の役に立てるやりがいのある仕事だと思ったからです。周りにも医師を目指す友人がいて、お互いに刺激し合いながら勉強に励み、医学部に入学しました。

繊細な手術を必要とする眼科の魅力

医学部を卒業後、初期研修医として働きはじめ、手術をして患者さまを治せる外科系の診療科に惹かれるようになりました。外科、産婦人科、整形外科などを回り、最終的に眼科への入局を決めました。元々細かい作業が好きだったので、繊細な操作が要求される眼科の手術が自分に合っていたのだと思います。「見えない状態から見えるように治す」という機能再建ができることも、眼科の大きな魅力だと感じました。

眼科一般を広く診ますが、専門は網膜硝子体という分野です。網膜という神経組織を直接扱うため、眼科の中でも特に繊細な手術が必要とされています。難易度の高い手術もありますが、放っておくと失明してしまうような状態の患者さまを手術で救えることは、非常に

魅力的だと思います。今では薬物治療もどんどん進歩しており、以前は失明していたような病気でも、かなり視力を保てるようになってきています。

眼科医療は目覚ましいスピードで進歩していますが、それでも全ての患者さまを救えるわけではありません。難治症例に対して手術をしたものの、最終的に視力を失ってしまったときなどは、非常に悔しい思いをしますし、患者さまに対しても申し訳なく思います。だからこそ、日々勉強を続け、より良い医療を提供していきたいです。

北海道の地で、患者さまファーストの医療を

井上眼科には、今年の4月に着任しました。北海道の各地の病院で勤務してきた経験を活かして、幅広い眼科疾患を診療し、患者さまファーストの医療を提供したいですね。日帰り網膜硝子体手術や難症例の白内障手術にも対応していく予定です。

また、北海道は医療のアクセスに恵まれない方も多いです。患者さまそれぞれが、地理的・経済的・社会的な背景に合わせた治療を選択できるよう、よくお話を聞いて、こちらからご提案することを心がけています。

目が見えなくなるというのは大変な不安が伴うと思います。患者さまの声をよく聞き、一緒に治療に向き合いますので、不安があれば何でもご相談ください。



最近コロナ禍で行きにくいですが旅行好きです。写真は出雲大社に行った時のものです。

【第32回】同門会だより

全国で活躍中の井上眼科OBの先生方をご紹介します！

医療法人社団 木花馨会 大野眼科クリニック

大野 尚登 院長

2000年4月～2005年6月 西葛西・井上眼科病院在籍

2007年2月～2013年3月 井上眼科病院在籍

2013年4月～2016年7月 西葛西・井上眼科病院在籍

今回、ご紹介するのは、埼玉県朝霞市の「大野眼科クリニック」院長 大野尚登先生です。大野先生は、網膜剥離などを扱う硝子体手術を中心に多くの手術の経験を積み、西葛西・井上眼科病院では副院長を務められました。「井上眼科に在籍中、内外のいろいろなドクターとの出会いが貴重な財産になっています。」(大野院長)

現状に甘んじることなく眼科医療の進歩に遅れを取らないため、国内外の学会に積極的に参加して新しい知識と技術の習得に努め、最新の



人に優しいクリニックを目指して



大野院長（左）と当院の井上（右）

検査機器、治療器具、手術システムなどを積極的に取り入れておられます。またスタッフが働きやすい仕組みを作ることや、接遇向上にも力を入れていただいております。

「これまで培ってきた多くの経験を活かして丁寧に親身な診療を行い、白内障、網膜硝子体疾患の手術治療を中心に、眼に関わる様々な疾患に対応し、患者さま一人ひとりに『正しい診断、適切な治療』が提供できるように努める所存です。」(大野院長)

クリニック情報

医療法人社団 木花馨会

大野眼科クリニック

〒351-0034 埼玉県朝霞市西原2丁目14-18

TEL. 050-3184-2575

<https://ohno-eye.com/>

INFORMATION

グループ 令和6年能登半島地震への眼科支援活動に

1月中旬、能登半島地震の1.5次避難所となる金沢市で井上賢治院長（日本眼科医会常任理事）が眼科医療の支援にあたりました。日本眼科医会が派遣した眼科医療支援車両「ビジョンバン」に同乗し、石川県内の医師らと協力して10人で80名近い方を診察。ビジョンバンは通常の診療室と同様に暗室環境をもち、視力、眼圧、眼底、OCTなどの高度な眼科検査ができる車両。平時の診察とは状況異なる中、点眼薬がない、老眼鏡を紛失したなどさまざまな目の症状に対応いたしました。



※提供：日本眼科医会

グループ 世界緑内障週間に参加しました

毎年3月に実施される世界緑内障週間（3/10～16）の「ライトアップ in グリーン運動」に参加いたしました。当院グループはこの運動に2017年から参加しており、お茶の水・西葛西・札幌の3施設でライトアップを実施しています。世界緑内障週間は2008年から世界で行われている国際的イベント。国内では2015年からライトアップの活動がスタートし、現在では300施設以上が参加しています。緑の光には、「あなたの眼がずっと見えていますように」という願いが込められています。



医療法人社団 済安堂

井上眼科病院グループ

INOUYE EYE HOSPITAL GROUP

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-3

新お茶の水ビルディング 18階

<https://www.inouye-eye.or.jp/>

井上眼科だより vol.128 | 井上眼科病院グループ広報誌 2024年4月1日発行 | 編集・発行/井上眼科病院 経営企画部 広報課

今月の表紙

4月から入職した酒井院長。早速、井上理事長と一緒に、今月の表紙に登場してもらいました。